

4 RILEM TC HTC (コンクリートの高温力学特性 - モデル化と適用例) の概要

1. 活動目的

TC 129 (コンクリートの高温力学特性に関する試験方法) では、コンクリートの高温力学特性に関する推奨試験方法の案を下記のとおり策定してきており、さらに完成度を高めるのが、本委員会の活動目的である。

- ・ 1章：序 (未完成、完成予定は未定)
- ・ 2章：応力歪関係 (2000年公表予定)
- ・ 3章：圧縮強度 (1995年公表済み)
- ・ 4章：引張強度 (2000年公表済み)
- ・ 5章：弾性係数 (2000年公表予定)
- ・ 6章：熱歪 (1997年公表済み)
- ・ 7章：遷移クリープ (1998年公表済み)
- ・ 8章：定常状態クリープ及びクリープ回復 (2000年公表済み)
- ・ 9章：収縮 (2000年公表済み)
- ・ 10章：拘束 (2001年公表予定)
- ・ 11章：レラクゼーション (2001年公表予定)

2. 活動計画

- ・ 設立：2001年4月4日 / 活動期間：3年
- ・ 高温時、特に非定常条件を考慮した材料モデルを開発する。
- ・ 材料モデルは、Dr.Anderberg, Dr.Khoury, Dr.Fransen/Mr.Morita および Prof.Schneider 並びに Prof.Majorana によって開発された既存モデルに基づいたものとする。
- ・ 細孔の高圧力発現と関係する急速加熱によるコンクリート剥離の影響とともに、ユーロコードによるコンクリート構造物に関する既存モデルを考慮に入れる。

3. メンバー

- ・ 委員長：U.Schneider(Austria)
- ・ 幹事：R.Felicetti(Italy)
 - ・ 委員：G.Debicki(France), U.Diederichs(Germany), J.M.Franssen(Belgium), U.M.Jumppanen(Finland), G.A.Khoury(UK), A.Millard(France), W.A.Morris(UK), T.Naruse(Japan), L.Phan(USA), E.Schlangen(Netherlands), Y.Zaytsev(Russian Federation)

4. 期待される成果

- ・ 複雑な実験で得られコンクリート構造物の複雑な計算に適用した材料データの適用性及び再現性に関する技術報告 (高温環境に曝された材料特性およびコンクリー

ト構造物のモデル化)

5 RILEM TC RLS (スラブあるいは舗装の補修・ライニングあるいは補強用のセメント系接着オーバーレイ材料) の概要

1. 活動目的

- ・ セメント系接着オーバーレイに関する設計・施工指針を策定する。
- ・ 収縮、クリープ、熱の影響、亀裂、界面の品質、オーバーレイの繊維補強などの影響を調査する。

2. 活動計画

- ・ 設立：2001年9月13日 / 第一回会議：2001年5月24日 / 活動期間：3年
- ・ 作業を並行して実施する（提案した計算モデルの実験による実証 / 疲労試験等）。

3. メンバー

- ・ 委員長：J.L.Granju(France)
- ・ 幹事：B.Bissonnette(Canada)
- ・ 委員： H.D.Beushausen(South Africa), R.Cope(France), L.Courard(Belgium),
E.Denarie(Switzerland), D.W.fowler(USA), R.Gagne(Canada),
M.A.Glinicki(Poland), K.Kovler(Israel), H.Mihashi(Japan),
R.O.Rasmussen(USA), P.Seidler(Germany), J.Silfwerbrand(Sweden),
J.Strupisuput(Slovenia), A.Turatsinze(France), A.Vaysburd(USA),
A.Zajc(Slovenia)

4. 期待される成果

- ・ 耐久性に富んだセメント系補修あるいは接着オーバーレイに関する指針
- ・ 機関紙などの雑誌への中間成果の報告
- ・ 最終成果は、ワークショップ、シンポジウムあるいは補修に関する会議の特別セッションで報告

以上